科目ナンバリング	U-LAS60 10001 LJ17						
授業科目名<英訳>	統合科学 ：生命と社会（生命科学の進歩と人の生活） Interdisciplinary Sciences :Life and Society (Implications of the Progress in Life Science on Human Life)			担当者所属職名・氏名	生命科学研究科 講師 小林 稔 生命科学研究科 准教授 加藤 紀彦 生命科学研究科 講師 日下部 杜央 iPS細胞研究所 特定准教授 三成 寿作		
群	統合科学科目群			分野(分類)	統合科学	使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

科学・技術の進歩は、人の生活を大きく変えてきました。特に、２０世紀後半からの生命科学の著しい進展の成果として、劇的な技術革新がもたらされました。それらは、私たちの身のまわりに多く存在して生活そのものに大きな影響を与えていますが、そのことを意識する機会はあまりありません。そこで、本授業では生命科学の進歩と人の生活との関連に着目し、具体的なテーマをいくつか挙げて解説します。さらに、それらの先端技術が現代社会にもたらす新たなリスクやその解決法などについて議論をおこなうことで、私たちの生活と生命科学の関わりについて多面的にとらえられるようになることを目的とします。

[到達目標]

現代社会において、生命科学が私たちの生活にどのように関わっているのかを、技術の側面のみならず倫理的・法的観点などを含めて多面的に理解する。また、ディスカッションを通じて、答えを求めることの難しい問題について総合的に考察する能力を養う。

[授業計画と内容]

３つのテーマについて講義し、最後に全てのテーマをとおして考えられる問題について総合ディスカッションをおこなう。また、各講義の終わりあるいはトピックスの切れ目に、グループディスカッション等をおこなう。

1回目　小林　ガイダンス

テーマ１：本テーマは、生命科学の基礎となる、遺伝子やタンパク質などの物質を基盤にした生命観への理解を深めることを目的とする。
2~5回目　小林　（生命科学の視点からみた生物）

テーマ２：技術の側面からみた生命科学　（第６回～第９回）
生命と社会のつながりについて、バイオサイエンス・バイオテクノロジーの観点から解説する。
6回目　加藤　（遺伝子診断）
7回目　加藤　（食品添加物）
8回目　日下部　（高額医療）
9回目　日下部　（遺伝子組換え作物）

テーマ３：社会との関わりからみた生命科学　（第１０回～第１２回）
生命と社会のつながりについて、先端医療技術の進歩と生命倫理のかかわりという観点から解説する。
10回目　日下部　（性差）

統合科学 ：生命と社会（生命科学の進歩と人の生活）(2)へ続く↓↓↓

統合科学 ：生命と社会（生命科学の進歩と人の生活）(2)

11回目　三成　（ゲノム情報利用をめぐる倫理的課題）
12回目　三成　（ヒト胚へのゲノム編集技術適用）

13回目　全教員　（総合ディスカッション1）
14回目　全教員　（総合ディスカッション２）

15回目　フィードバック

[履修要件]

特になし。スタート時点では生命科学分野の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、授業内で適宜補足する。文系の学生にも配慮した講義を行う。

[成績評価の方法・観点]

出席と参加の状況（７０%）、課題についての発表（３０%）を総合して評価します。出席は教室の出席登録端末にて管理。授業開始時刻より１５分以降入室の場合は遅刻、３０分以上以降入室は欠席扱いとします。

[教科書]

使用しない

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容について、何かしら自分の意見を言えるように、関連する話題の本やニュース等を見て考えておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

メールでの質問可。面談はメールで予約を取ること。

[主要授業科目（学部・学科名）]

理学部